在宅での取り組み「痙縮に対するボトックス筋注」

痙縮（けいしゅく）とは、脳卒中や脊髄損傷などの疾患によって、筋肉の緊張が過度に高まり、手足が動かしにくくなったり、日常生活に支障をきたしたりする状態です。

ボトックス筋注は、筋肉の過剰な緊張を和らげることで、関節の動かしやすさを改善し、日常生活動作（ADL）の向上や介助負担の軽減などが期待できる治療法です。一般的には、効果の持続期間に応じて、約 3 か月ごとに治療を行います。

このたび、適切な管理・実施体制を整え、安全に治療を提供できる準備が整いました。当院で初めてとなるボトックス筋注を在宅にて施行しました。

超音波（エコー）を活用し、筋肉の位置や状態、注射部位を確認しながら施行しています。エコーで確認することで、目的とする筋肉を把握し、より適切な部位への注射になります。今回は、大腿二頭筋に 4 か所、内転筋に 2 か所の計 6 か所にボトックスを注射しました。

現在、施術から 1 か月が経過し、左股関節の可動域が以前より広がったことを、本人・ご家族が喜んでおられます。

今後も治療の効果や状態の変化を確認しながら、患者さん一人ひとりに合わせた継続的な医療を提供できるよう努めてまいります。



エコーによる注射部位の確認をしている様子



エコーガイド下でのボトックス筋注をしている様子



※掲載している写真は、患者さんのご了承をいただいております。